

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>平成30年9月定例教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他4人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と私とする。</p> <p>本日の会議日程について、報告(2)については、「正式公表前の案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、報告(2)について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、報告(2)については、非公開とする。</p>		
<p>日程第1 前回会議録承認</p>			
<p>遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>7月31日開催の平成30年第4回臨時教育委員会会議録、8月10日開催の平成30年第5回臨時教育委員会会議録、同じく8月10日開催の平成30年8月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前3回の会議録を承認する。</p>		
<p>日程第2 事務局報告</p>			
<p><u>(1) 事業・行事等報告について</u></p> <p>前回会議(平成30.8.10)以降の事業・行事報告(主なもの)</p> <table border="1" data-bbox="213 1912 1385 2029"> <tr> <td data-bbox="213 1912 563 2029">8月16日(木)</td> <td data-bbox="563 1912 1385 2029">平成31年度熊本市立学校教員採用選考試験(2次試験)(~21日)</td> </tr> </table>		8月16日(木)	平成31年度熊本市立学校教員採用選考試験(2次試験)(~21日)
8月16日(木)	平成31年度熊本市立学校教員採用選考試験(2次試験)(~21日)		

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

8月23日(木)	第69回全九州中学校長研究大会熊本大会
	第2回特別支援学校開設準備委員会
24日(金)	熊本県教育委員会との意見交換会
27日(月)	教育講演会
29日(水)	第3回校長・園長代表者会
31日(金)	第2回教育課程検討会議
9月3日(月)	始業式
	熊本市PTA協議会一斉あいさつ運動
	第3回定例市議会開会(～9月28日)
8日(土)	民間放送教育協会 四国・九州・沖縄地区研究協議会
27日(木)	小中一貫教育検討委員会
今後の予定(主なもの)	
10月2日(火)	第3回校長・園長会
4日(木)	第32回熊本県市町村教育長研修大会(～5日)
16日(火)	市長とドンドン語ろう&タウンミーティング!with 高校生
18日(木)	全国美術高等学校協議会研究大会熊本大会総会
19日(金)	第48回九州ブロック社会教育研究大会熊本大会
26日(金)	第59回九州音楽教育研究大会熊本大会
27日(土)	第34回小学校算数教育全国(熊本)大会
日程第3 議 事	
・議第61号 熊本市教育振興基本計画(平成28～31年度)実施計画(平成30年度版)の策定について	
《上村教育政策課長 提出理由説明》	
西山委員	資料3-55(主な取組)「児童虐待への対応強化」について、熊本市での児童虐待の実態、また、それを踏まえてどういう取組を行っているかということについて、説明をお願いしたい。
徳永総合支援課長	この件については、子ども政策課・児童相談所が所管しており、具体的な虐待の数等については手元に資料がないため、確認して、後日お知らせする。

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

小屋松委員	資料3-49(主な取組)「放課後児童対策の推進」のうち、4-2-ア「青少年国際交流経費」の中で、平成29年度は交流を休止し、平成30年度は一部交流を再開とあるが、具体的には従来行っていた交流を再開させるということか。
上原青少年教育課長	平成30年度は、ハイデルベルク市との交流を例年どおりに復活させた。また、以前交流を行っていた桂林市とも今後の交流について検討を重ねているところである。
小屋松委員	平成29年度に休止したのは、熊本地震の影響か。
上原課長	そうである。地震後、受入側となる熊本の子どもたちの状況が落ち着かない、熊本城の崩壊等により案内できる場所が少ないといった事情で一時休止していた。
西山委員	資料3-37(主な取組)「特別支援教育の推進」について、あおば支援学校の開設はいつか。
西特別支援教育室長	2020年春に開校予定である。
西山委員	その際の選抜方法や募集要項については、既に準備してあるのか。
西室長	現在、教育課程の検討を行っているところである。その内容について、今後教育委員会会議に提出する予定である。
西山委員	どのくらいの希望者があり、それに対する受入態勢は整う状況か。
西室長	新一年生以外は、ほとんどが他の支援学校からの転校生となる。先日、熊本支援学校に現状説明を行ってきたところであるが、まだこちらから具体的な内容を示すことができる状態ではなく、はっきりとした希望者の数は把握できていない。小学部は1学年1学級6名、中学部は1学年2学級12名の標準定員で計画をしているので、県の教育委員会とも話し合いながら、調整をしていきたいと考えている。

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

遠藤教育長	小学校1年生、中学校1年生から順次入学するのではなく、9学年を一気に受け入れ、例えば中学3年生は1年しか通わないということか。
西室長	そうである。
出川委員	重点的取組である、資料3-16「1 いのちを大切に 心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応」について、 いじめや不登校の数が増えていると思われ、この取組に即した、 近年の対応の変化について教えていただきたい。
徳永課長	<p>いじめに関しては、毎年「心のアンケート」を実施し、いじめられたことがあるか聞いているが、ここ数年、件数はほぼ変わらず、いじめが増えている状況ではないと考えている。但し、問題は対応がきちんとできているかであり、各学校では、アンケートや日常の学校生活におけるサインをキャッチできるように、研修等を行いながら、早期発見や未然防止の取組を継続しているところである。特効薬となる手立てはないため、粘り強く、日常の子どもたちの観察や、保護者や友だちからの情報収集をより細かく行っている。</p> <p>先日、いじめ防止の基本方針の改定を行い、例えば、今までは、「これはケンカであり、いじめではない」と判断していたことについても、よりつぶさに観察し、いじめの要素はないか丁寧に見ていくようにした。このことは、校長園長会や生徒主事会を通して伝えており、よりきめ細かに見る取組を進めているところである。</p>
出川委員	不登校についてはどうか。
徳永課長	<p>不登校については、全国的に増えており、本市でも年々増加傾向にあり、最重要課題と捉えている。各学校では、その解消に向けて熱心に取り組んでおり、今まで不登校だった子どもが登校するようになった数も増加している。しかし、それ以上に新規で不登校になる子どもたちがあり、全体数の減少までには至っていない。</p> <p>不登校には、大きく3つの要因があると言われている。学級の中で人間関係がきっかけになる場合、本人に心の問題がある場合、家庭環境に問題がある場合である。その3つに対応す</p>

<p>小屋松委員</p>	<p>るために、今年度から2つの中学校区で、学校生活の問題に対応する「不登校対策サポーター」、心の問題に対応する「スクールカウンセラー」、家庭環境の問題に対応する「スクールソーシャルワーカー」の3者を配置する取組を行っている。1学期の状況として、今まで全く登校できなかった子どもが、少しずつ学校に来ることができるようになったというような改善報告を受けているところである。この効果が検証できれば、是非この取組を進めていきたいと考えているところである。</p> <p>資料3-25(主な取組)「豊かな心を育む教育の推進」の「目的イ」に「社会的・職業的自立に向けた力と豊かな人間性を育むために、キャリア教育、自然体験や勤労体験などの体験的学習の充実を図ります。」とあり、その具体的手段の一つとして「ナイストライ」事業があると思う。ナイストライ事業による成果はある程度はあると考えるが、その充実のために、小学校の高学年で一度、職業観や仕事観に係るキャリア教育を行うべきである。是非今後は、小学校高学年でキャリア教育を行い、中学校でのナイストライにつなげるという視点で、キャリア教育を実施して行ってほしいと希望する。</p>
<p>松島指導課長</p>	<p>キャリア教育の充実は、来年度更に進めていきたいと考えているところである。来年度は、文部科学省がキャリアパスポートを導入することにしており、これは、小中高までの子どもたちのキャリア意識をつなげていくカルテのようなものである。本市でも、これを有効に活用して、小学校でのキャリア教育、中学校でのキャリア教育を高校にまでつなげていく。それによって、学ぶ意味をしっかりと子どもたちが持てるようになり、学力向上にもつながると考えており、そのためにもキャリア教育を更に充実させていきたい。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>現在、小中一貫教育にも取り組んでおり、学業だけではなく、そういう面においても連続性を作っていきたいと考える。</p>
<p>松島課長</p>	<p>学習面だけではなく、生活面でも小中学校でのつながりをしっかりと持たせ、更に進めていきたいと考えている。</p>
<p>西山委員</p>	<p>社会にはどのような職業があり、その職業に就くためには、どのような過程を経ればいいのかというような教育が薄いので</p>

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

	<p>はないかと感じている。将来の職業を考えた時に、どのような職業があるかさえ思い浮かばない。例えば、司法書士とはどんな仕事か、更にどのようにしてなれるのかわからないと思う。職業に関する本はあるが、学校教育の中でも、そのような教育が取り入れられたらいいと思う。</p>
松島課長	<p>ナイストライ事業でも、子どもが体験できる職場は限られる。全ての職種を網羅することは難しいが、学校によっては地域の様々な職種の方を招いて、「スクールハローワーク」と銘打って、話を聞く取組を行っている学校もある。そのような取組を更に広げていきたいと考える。</p>
遠藤教育長	<p>小学校の段階では、わかり易い職業、そうでない職業があると思うが、できるだけ多くの職業を知る機会を作っていきたい。</p>
西山委員	<p>小中高校の教育を通じて、様々な職業とそれに就くための過程について教えることができるといいと思う。</p>
小屋松委員	<p>この件に関しては、民間の力を利用し、学校に負担をかけない方法をとることも必要である。また、中学生くらいになると、現場を体感することが大事であるため、現場に出るような職業体験を行ってほしいと思う。地域で職業体験をするとすると、職種が限られてくると思うが、ナイストライ事業は、地域に限定されたものか。</p>
松島課長	<p>基本的には、地域に協力いただくものであるが、例えば動物園や放送局などは限られた地域にしかないため、全市的に希望をとって行っている。</p>
小屋松委員	<p>そのような場合は、先生が引率するのか。</p>
松島課長	<p>基本的には、引率はなく、子どもたちで「通勤」することになっている。</p>
	<p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>

・議第62号 熊本博物館協議会委員の委嘱について

《植木博物館長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

・報告(1) 「市長とドンドン語ろう&タウンミーティング! with 高校生」について

《上村教育政策課長 報告》

西山委員

市長と教育委員の意見が異なる場合があってもよいのか。

遠藤教育長

かまわないと考える。意見が違う場合、その後の総合教育会議で話すこともできる。

西山委員

「交通の便の良いところに自習スペースを設置して欲しい」という質問があるが、県立図書館や市立図書館に自習スペースはあると思われるが、どうか。

上村課長

駅前の森都心プラザ図書館や市立図書館には、自習スペースがある。おそらく、それ以外で自習スペースがほしいという要望であると捉えている。

遠藤教育長

単純に知らない可能性もあるし、もっと設置してほしいということかもしれない。

西山委員

県立図書館には、自習スペースはないのか。

坂本図書館長

県立図書館にも、閲覧室の他に自習スペースが設けてある。

小屋松委員

自習スペースとは、調べ学習をするための場所であり、受験

<p>坂本館長</p>	<p>勉強等をするスペースではないのではないかと。</p> <p>基本的には、調べ学習をしてもらうためのスペースとして用意されているものであるが、自習スペースとして運用している。公民館に図書室があるが、そこに自習スペースを設けて欲しいという要望があり、そのことを言っているのかもしれない。</p>
<p>西山委員</p>	<p>利用者はどのくらいあるか。</p>
<p>坂本館長</p>	<p>市立図書館では、特に夏休みは、開館前から行列ができ、開館と同時に満室になる状況である。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>質問が出ない場合や、時間調整等のために、コーディネーターが必要ではないか。</p>
<p>上村課長</p>	<p>その場合も踏まえて準備を行う。</p>
<p>森委員</p>	<p>かなり質問が多く、意見交換の時間が持てないのではないかと。</p>
<p>上村課長</p>	<p>質問に対しては、簡潔に答えられるようにし、高校生にとって、意見交換ができるせつかくの場であるため、できるだけ意見交換ができるよう、共同で行う広聴課とも打ち合わせを行う。</p>
<p>西山委員</p>	<p>高校生の職業観の醸成や防災教育など、高校生にとって有益な会となるよう司会にリードしてもらいたい。また、今地方創生とよく言われるが、大人の目線でしか見ていないため、高校生の目から見て、熊本をどう活性化したらいいか、といったテーマを設けるのも面白いと思う。そのような点について、高校生の意見を聴いてはどうか。</p>
<p>・報告(3) SNSを活用した悩み相談等業務について</p>	
<p style="text-align: center;">《徳永総合支援課長 報告》</p>	

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

出川委員	<p>実施期間が夏休みにかかっているが、このホットラインについて、生徒に対する広報をどのように行ったのか。</p>
徳永課長	<p>LINEにつなぐためのQRコードを取得し、そのコードを掲載した生徒・保護者向けの広報プリントを、夏休みに入る1ヶ月前くらいに各学校に配布してもらった。夏休みに入ってから、市のホームページ、市政だより、教育委員会で作成する広報誌等で、本事業についての周知を行った。</p>
遠藤教育長	<p>一番相談が多かった、「生徒間交友」には、例えばどのような相談があったのか。</p>
徳永課長	<p>仲がいい友だちとの関係がうまくいっていないという相談が一番多かった。</p>
森委員	<p>元々この事業は、水面下にあって表に出てこないいじめをすくい上げる方法の、試みの1つとして始まったものである。今回いじめに関する相談件数は全体の中で少ないが、今回あったいじめの相談の内容についてや、従来は上がってこなかったものだが、この相談方法があったからこそ上がってきた相談があったか、ということ等について教えていただきたい。</p>
徳永課長	<p>LINEを活用した相談は、匿名で、内容は秘密としている。相談者のいじめに関する状況を相談員が聴き、共感したり、解決方法について提案したりすることで、相談者が自分なりの解決方法を見出し、相談が終わるケースが多かったように思う。メニューには、「LINE相談」の他、もう1つ、「通報ボタン」を設置した。「通報ボタン」は、学校名、学年、名前も書き込んで、通報するものであったが、2件の通報があった。1件は自分のことを通報しており、もう1件は自分の妹がいじめられているのではないかとの通報だった。それらについては、各学校と連携し、対応を行っている。</p>
<p>・報告(4) 平成31年度市立高等学校使用教科用図書採択について</p>	
<p style="text-align: center;">《松島指導課長 報告》</p>	

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

遠藤教育長	採択基準は、10年前に改定したきりのようだが、最近の動きに合わせて、改定する必要はないのか。
松島課長	毎年高校にそのような議題を上げているが、特に要望はない状況である。
遠藤教育長	指導要領が変わっても、そのままがいいのか。
松島課長	教科書の内容についてではなく、教科書を選ぶ手順としての採択基準であるため、指導要領が変わったとしても、採択の基準そのものに大きく変更はないものと考えている。
・報告(5) 第一回熊本市小中一貫教育検討委員会の報告について	
《松島指導課長 報告》	
西山委員	連携カリキュラムの具体的な内容について検討しているか。
松島課長	4月定例教育委員会会議において、「小中連携カリキュラム【熊本スタンダード】」の策定について、議決いただいているが、特に小中連携に関しては、各校区でそれぞれに特徴があるため、具体的な内容は各校区で考えていただくようお願いをしている。例えば、学習規律の一本化、生徒指導としての挨拶の仕方など、様々な分野を想定し、各校区で重点項目を定め、小学校・中学校の柱を作り、連携を進めていただくことを考えている。
西山委員	連携によるメリットは何か。
松島課長	中学校にとってのメリットが大きいように思う。中学校で新たに学習の仕方について取り組むよりも、小学校からずっと同じ方法での学習の仕方が身に付いていれば、中学校としては、非常に指導がしやすい。制度上は、(小学校)6年間、(中学校)3年間という区切りがあるが、子どもの成長には連続性があるので、連続した9年間の育ちを見ていきたい。また、教職員が小学校、中学校を区別せず、連続した育ちであるとの意識をしっかりと高められるようにしたいと思う。

遠藤教育長	<p>中1ギャップといって、中学校に上がると、小学校とは、学校生活等のやり方や環境が違うためにショックを受けることがある。それによって急に不登校が増えたりすることが課題であり、環境の急な変化を緩和する効果もあると考える。</p>
西山委員	<p>小学校の先生は、小学校を卒業させたら終わりという考え方ではなく、中学校に上がったからの教育についても配慮しながら教育を行うという考え方であると理解した。</p>
遠藤教育長	<p>資料9-1の で、「(幼稚園を含めると12年間)」という記述があるが、以下では幼稚園については、特に記述はないようだが、幼稚園に関しては何かあるのか。</p>
松島課長	<p>現在、まずは小学校と中学校の連携を固めようとして取り組んでいるところで、先ほどご説明した【熊本スタンダード】は小中連携のためのものであるが、別に幼稚園と小学校低学年をつなぐための「スタートカリキュラム」を作成し、配布している。本市には公立の幼稚園は6園で、後は私立の幼稚園、若しくは保育園、家庭教育を行っているご家庭など、非常に多様性がある。小中学校の連携に取り組む一方で、こちらも同時進行を進めており、幼小中連携の日を設け、各校区で幼小中の連携も進めてもらっているところである。</p>
遠藤教育長	<p>もう1点、「平成31年度からは、希望する校区については、小中一貫校への移行も行う」とあるが、誰が希望するのか。</p>
松島課長	<p>「希望」という表現が適切でなかったかもしれない。これは、やりたい、やりたくないということではなく、「小中一貫の制度を、学校や地域で受け入れる状況が整っている」という意味である。</p>
出川委員	<p>の図の「Bグループ」は、小学校同士に矢印があり、小学校同士の連携があるようだが、「Cグループ」については小学校同士に横の矢印がない。矢印はないものの、小学校同士の連携もあると考えて良いのか。</p>
松島課長	<p>ご指摘のとおりである。「Cグループ」には、小学校同士の矢</p>

<p>出川委員</p>	<p>印はないが、小学校同士の連携がないということではない。「Bグループ」は、1つの中学校にしか行かないため、より共通理解が図り易いという特色がある。そこを協調するために「Bグループ」では小学校同士に矢印を付けたものである。</p>
<p>松島課長</p>	<p>では、「Cグループ」の中学校同士にも関係性があるのではないか。</p>
<p>森委員</p>	<p>ご指摘のとおりであり、「幼小中連携の日」や、小学生の中学校へ体験入学の日程調整など、事務的な中学校同士の連携も多くあり、有形無形の、様々な連携をとっているところである。</p>
<p>松島課長</p>	<p>「Cグループ」のB小学校は、1小2中というパターンになっている。連携を図ること自体は積極的に行うべきであるが、B小学校の立場からすると、「Aグループ」、「Bグループ」と比べ、2つの中学校の間で連携のための会議や打ち合わせを行わなければならないため、事務的にも時間的にも負担が増える部分がある。今、働き方改革を推進している中で、そこをどう考えるか。</p>
<p>〔非公開の審議〕</p>	
<p>日程第4 報告</p>	
<p>・報告(2) <u>平成29年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査</u> <u>について</u></p>	<p>《徳永総合支援課長 報告》</p>

平成30年9月 教育委員会会議録(要旨)【9月27日(木)】

<p>〔閉会〕 遠藤教育長</p>	<p>本日の日程は全て終了したので、平成30年9月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>
-----------------------	---